

健康♪外来ニュース

甲状腺

No. 42 令和4年10月15日

甲状腺は“のど仏”の下

甲状腺は20gほどの蝶形の組織で、唾をゴクンと飲み込む時に上下に動く甲状軟骨(通称:のど仏)の下方に接して存在し、一緒に動きます。女性では男性より高い位置にあり、通常は皮下脂肪に埋もれて触知できません。

余談ですが、“のど仏”の奥には声帯があるので、軽く叩きながら話すと声帯が揺れて「ワレワレワ～」と宇宙人ぽい話し方になります。

甲状軟骨を“のど仏”と呼ぶのは、火葬場で大切に収骨される“のど仏”即ち第二頸椎(上部に突き出た歯突起が仏の頭、左右の椎弓が両手を合わせて拝む姿に見える)が、首の前方に出っ張っていると勘違いしたからだそうです。

全身の新陳代謝を促進する甲状腺ホルモン

脳下垂体から分泌されるTSH(甲状腺刺激ホルモン)が、甲状腺に働いてT4(サイロキシン)を生成し、次にT3(トリイードサイロニン)に変化してホルモン作用を発揮します。TSHの分泌量は血中T4、T3が増えると減少し、減ると増加します(フィードバック制御)。血液検査では、蛋白と結合していない遊離型のFT4、FT3を測定します。甲状腺の病気は女性に多く見られます。

●**バセドウ病**(甲状腺機能亢進症)は、自己免疫機序によって作られたTSH受容体抗体(TRAAb)が、TSHと同様の作用でT4、T3を増加させます。甲状腺腫大、眼球突出(目の奥の脂肪が膨張)、頻脈が三大症状です。発汗、下痢、体重減少、ふるえなどを生じ、コレステロール値は低下します。●**橋本病**(慢性甲状腺炎、成人女性の10%)は、自己免疫機序で作られた抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)が、T4、T3生成を阻害し、甲状腺機能は初め正常でも後に低下します。寒がり、むくみ、便秘、眠気などを認め、コレステロール値は増加します。●T4、T3が正常値でもTSHが高値を示す状態は、身体(脳)がT4、T3不足と感じている**潜在性甲状腺機能低下症**(成人の10%)です。認知機能低下や動脈硬化を悪化させるので、甲状腺ホルモンを服用します。●消耗性疾患(がん末期、腎不全、低栄養など)で見られる**低T3症候群**は、T4からT3への変換を止め新陳代謝を低下させて体力消耗を防ぐ適応現象です。●ウイルス感染(風邪)後に見られる**亜急性甲状腺炎**では、甲状腺が破壊され、発熱と痛みを伴う甲状腺腫大を生じます。

ヨードによる甲状腺ブロック

甲状腺ホルモンの原料であるヨード(ヨウ素)は、海産物を好む日本では欠乏しないが、世界ではヨード欠乏によるクレチン症・精神発達遅延などが多くみられ、ヨウ素添加食塩が使われています。ヨードを摂り過ぎると、甲状腺機能は亢進するだけでなく低下する場合もあります。原発事故では、ヨウ素剤を服用して放射性ヨード(^{131}I)を甲状腺に取り込まないようにブロックします。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋